

第一九節 災 害

私たちの先祖は長い歴史の過程において、数え切れないほどの災害に

遭遇してきたであろう。本節では記録の上で比較的信頼できる江戸時代の讃岐の災害につき、『高松藩記』・『庄屋記録』・『讃岐国大日記』にもとづいてそのおもなものを次に掲げる。わが郷土も当然大なり小なりその影響をうけたはずである。

年号	災	年号	災	年号	害
慶長19	一〇月二五大地震	天和元	八月一日洪水 溺死者 五穀実らず 餓死多し 前年も洪水これを申酉(さるとり)の洪水という	天和元	八月一日洪水 溺死者 五穀実らず 餓死多し 前年も洪水これを申酉(さるとり)の洪水という
寛永2	一月四国・中国大地震	貞享3	七月二日烈風大水	貞享3	七月二日烈風大水
" 3	閏四月七日 大暴風雨 以後九五日 七月一五日まで降雨なし 餓死者多数	" 4	九月九日大風洪水 藩士の禄を二分の一に減ず	" 4	九月九日大風洪水 藩士の禄を二分の一に減ず
" 9	干ばつ	元禄3	六・七月干ばつ	元禄3	六・七月干ばつ
" 15	大干 大飢饉	" 4	八月二日大暴風雨 麻疹流行	" 4	八月二日大暴風雨 麻疹流行
" 20	四月下旬から六月下旬まで雨なし 秋から冬にかけて餓死者多数	" 6	夏大雨洪水	" 6	夏大雨洪水
正保2	大干ばつ 新池四〇六 既九〇六 計一三三六となる	" 8	七月二日大風洪水 五穀実らず	" 8	七月二日大風洪水 五穀実らず
承応3	夏大干 秋大洪水 五穀実らず 飢饉 牛馬餓死数千頭 冬から翌年夏にかけて数万人に施米 藩金六〇貫貸与 三・四戸ごとに牛一頭を飼わず 貢米大いに減少 藩士の禄を五分の一に減ず これを「午年の大干」という	" 9	九月九日大風洪水	" 9	九月九日大風洪水
万治3	五月大水	" 10	夏干ばつ	" 10	夏干ばつ
寛文2	五月一日地震	" 11	六月大干	" 11	六月大干
" 6	八月四日洪水 家流失一三八戸	" 12	夏干ばつ	" 12	夏干ばつ
" 8	夏大干	" 13	五月から八月まで干ばつ いなごの害が甚し	" 13	五月から八月まで干ばつ いなごの害が甚し
延宝元	五月一日・八月一七日両度大水	宝永3	七月二八日・八月晦日大風洪水 いなごの害甚大 年貢減免 難民救済	宝永3	七月二八日・八月晦日大風洪水 いなごの害甚大 年貢減免 難民救済
" 7	八月四日大洪水	" 4	三月朔日地震 八月一三日 同一九日大雨 九月一三日暴風雨	" 4	三月朔日地震 八月一三日 同一九日大雨 九月一三日暴風雨

年号	災	年号	害	年号	害
宝永5	一二月余震やむ 一二月二八日また大地震	享保16	七月二四日大風洪水 疫病流行 いなご害 麻疹流行 乞食多く 金穀貸付	享保16	七月二四日大風洪水 疫病流行 いなご害 麻疹流行 乞食多く 金穀貸付
" 6	六月から八月まで大干	" 18	七月大疫 死者多し	" 18	七月大疫 死者多し
正徳元	七月六日地震 秋虫害	天文元	八月一日地震 いなご害 飢饉	天文元	八月一日地震 いなご害 飢饉
" 2	夏干天七〇余日	" 19	三月・四月疫病流行 死者多し	" 19	三月・四月疫病流行 死者多し
" 5	七月七日大地震 疫病流行	" 2	四月一〇日より六月九日まで長雨 秋も長雨	" 2	四月一〇日より六月九日まで長雨 秋も長雨
" 7	干ばつ 雨乞	" 4	八月一六日洪水 堤防決壊	" 4	八月一六日洪水 堤防決壊
" 8	五月四日降霜寒さ甚しく牛馬斃死二二〇〇頭 七・八月大干 秋虫害 大飢饉	" 5	一〇月六日大風 家倒壊多し	" 5	一〇月六日大風 家倒壊多し
" 9	西讃六・七月干ばつ 秋いなご 大飢饉	" 2	十一月二日大風 一二月八日地震・雷・大風	" 2	十一月二日大風 一二月八日地震・雷・大風
" 10	夏長雨 六月一七日豪雨 一月四日大風雨	" 3	干ばつ 虫害 損害四万五〇〇〇石	" 3	干ばつ 虫害 損害四万五〇〇〇石
" 11	七月一〇日・七月一五日大暴風雨	延享元	三月九日雷・ひょう・七月朔日洪水 貢租三万五〇〇〇石損	延享元	三月九日雷・ひょう・七月朔日洪水 貢租三万五〇〇〇石損
" 13	六月二三日大風雨	" 2	七月八日大暴風雨	" 2	七月八日大暴風雨
" 14	八月一四日大風雨 溺死一〇〇余人 大飢饉	" 3	四月朔日地震 夏干ばつ	" 3	四月朔日地震 夏干ばつ
" 15	正月大風 三月痘瘡流行 夏干ばつ	" 4	七月二三日大風 倒壊家屋二〇〇〇余	" 4	七月二三日大風 倒壊家屋二〇〇〇余
	四月から七月にかけて大干	" 5	四月二日ひょう降る 六月三日風雨洪水 堤防決壊 溺死多し	" 5	四月二日ひょう降る 六月三日風雨洪水 堤防決壊 溺死多し
	六・七・八月大干 いなご害	" 6	七月七日大暴風雨 疫病流行	" 6	七月七日大暴風雨 疫病流行
	八月二日大風 三日洪水	" 7	六月疫病流行 八月一〇日大風雨 被害者救済 九月長雨 冬大降雪 山中住民多く凍死	" 7	六月疫病流行 八月一〇日大風雨 被害者救済 九月長雨 冬大降雪 山中住民多く凍死
	五月から七月まで大干 九月洪水	" 8	五月朔日大雨 八月一〇日大風雨 人馬多く死ぬ	" 8	五月朔日大雨 八月一〇日大風雨 人馬多く死ぬ
	五・六月雨なし	" 9	干ばつ 八月二四日大風洪水 秋いなご害	" 9	干ばつ 八月二四日大風洪水 秋いなご害
		" 10	夏大干 八月一九日大風洪水 九月疫病流行	" 10	夏大干 八月一九日大風洪水 九月疫病流行
		" 11	六月四日大風洪水 六・七月大干 七月二日大風洪水 九月二日	" 11	六月四日大風洪水 六・七月大干 七月二日大風洪水 九月二日
		" 12	・同一六日大風洪水 翌年につけ飢饉	" 12	・同一六日大風洪水 翌年につけ飢饉
		" 13	四月九日地震 六月二六日風雨洪水 七月三日また洪水 八・九月	" 13	四月九日地震 六月二六日風雨洪水 七月三日また洪水 八・九月

年号	災	害
文化5	夏干 六月二十九日大風洪水 飢饉 難民救済	弘化4 七月一三・一四日大風洪水
" 6	六月から八月にかけて大干 干ばつ	嘉永2 七月一〇・一一日大風洪水
" 10	五月から七月にかけて大干	" 3 九月二日大風洪水 いなご害
" 11	八月六日大風洪水	" 6 五月から八月大干
" 13	閏八月三・四日大風洪水	安政元 六月一五地震
" 14	九月九日大風雨 人馬多く死す	" 2 一一月四・五大地震 人家倒壊三〇〇〇 余震やまず土民草庵を造り避難すること十数日 金穀を土民に賜う
文政元	夏から秋にかけて降雨なし 大いに貢租を減す	" 3 七月朔日・二九日 八月二〇日ともに大風雨
" 2	六月二十七日大風雨	" 4 七月朔日大風洪水
" 4	七月二十九日・晦日・八月八日大風洪水	" 5 七月朔日大風洪水
" 5	五月から七月大干	" 6 九月コレラ大流行 死者多し
" 6	五月から七月大干	" 7 一一月二三日地震
" 9	五月二日・六月六日大風洪水	万延元 七月一日大風雨 長雨のため五穀実らず
" 12	七月一六日大風洪水	文久元 飢饉 粟三三〇〇石放出救済
天保3	六月から九月大干	" 2 四月から七月麻疹流行
" 4	八月大風雨	" 2 七月一四日大風洪水 七月麻疹大流行
" 5	八月七日大風洪水	" 2 八月七・八日大風洪水
" 6	閏七月六日大風洪水	" 2 八月七・八日大風洪水 八月一日から降り始め七日から八日にかけて大暴風雨 堤防決壊 橋梁流失おびただし 寅年の洪水という
" 7	穀物実らず飢饉	
" 10	八月九日大風洪水	
" 12	八月九日大風洪水	

年号	災	害
寛延3	悪疫流行 西讃百姓一揆 御貸免(年貢を貸すこと) 始まる	安永2 金穀をだし救済 春から秋にかけて悪疫流行 春夏悪疫 死者多し 飢饉
宝暦元	七・八月干ばつ 八・九月牛疫流行	" 5 八月二日大風洪水 麻疹流行
" 2	六月一九日大風洪水 七・八月干	天明2 五月四・五日大風雨 冠水田数千町歩 民家崩壊流失二三三戸
" 4	七月四日大風洪水 八月九・一〇日大風洪水	" 3 五月から六月長雨洪水 七月九日大風雨
" 5	六・七月降雨なし	" 3 八月二〇日大風
" 7	夏干ばつ	" 3 干ばつ 飢饉 西讃はわらびを食う
" 10	五月〜七月干	" 3 干ばつ 七月二日大風洪水
" 12	七月二六日大風洪水 民家倒壊数一〇〇〇戸 堤防決壊	" 6 九月六日大風洪水
明和2	人畜死傷多し	" 8 五月一四日から六月二二日まで雨 大洪水
" 3	九月五日大風洪水	" 9 七・八月干
" 4	一〇月難民救済	寛政2 六月から一〇日干
" 5	夏干ばつ	" 3 大干 五穀実らず飢饉 米五五〇〇石貸与
" 6	五・六月干	" 3 八月二〇日大風雨
" 7	五月から七月まで干ばつ	" 4 七月二六・七日大風雨
" 8	一〇月二〇日・二一日洪水 堤防決壊	" 6 九月八日また大風雨
" 9	前年から一六三日間雨なし 貢租三万石減 難民救済 六月から八月にかけて大干 三万石余の地半作 翌八年まで莫大な米銀をだし救済	" 7 七月二日大風洪水 諸國干ばつ
" 10	四月一日から六月二五日まで雨なし 田植済四割	" 7 七月二日大風洪水
" 11	八月二〇・二一日大風洪水 家倒壊一万九〇〇〇余戸 貢租数万石減	" 9 七月から大干 いなご害
" 12		" 11 八月一九日大風洪水 六月から八月干 洪水 麻疹大流行
" 13		享和元 六・七月干 九月二日大風雨
" 14		文化元 四月から六月干 寒川郡旋風民家倒壊 死人七

第一章 災害

明治以降、現在までの本県や本町の災害については、多度津測候所の記録や役場文書、高松気象台の記録、大川ダムの観測記録等にもとづくと次のようである。近世と比較して注目すべき点は、ため池の改修や河川改修、また、ごく最近の香川用水導入により干害、洪水が減ったこと、医薬・農薬の進歩によって疫病、稲の病虫害が減ったことなどが挙げられるが、暴風雨、地震等は避けられない。しかし、土木・建築技術の近代化により、その被害は軽減されつつある。本節では便宜上まず顕著な災害について具体的に述べ、その他については一覧表とする。

明治十九年 明治十九年九月一〇日午後四時ごろから南東の強風が起るの暴風雨 こと、しだいにその勢力を増し、九時ごろ豪雨を伴い、風位東方に転じて暴風雨となり、夜一時最も激しく、翌一日午前二時に風速急に減じて強雨のみとなり、四時ごろ強風が再起、五時になつてしだいに風雨はやんだ。被害は次のように大きかった。

建物倒壊 一六(石田東村八)、社殿 一、建物半壊 二五、建物破損 七三、へい・垣破損 三〇、水稲減収 二割、樹木転倒 一五か所、救護者 四戸・一五人。暴風雨によりわら葺き家屋が転倒し、赤貧のため小屋掛け料の「下渡し」(救助金を出願したもの、建坪一坪・二坪・三坪・九坪・一戸、六坪・一戸、五坪・一戸、三坪・二坪・二坪・二坪、計九戸)の役場記録がある。また、以上の被害の中には、布勢の荒魂神社で周り六尺、高さ七間の樹が転倒し、社殿が破壊されたことも含まれている。

明治十九年は天候に異変が多く、一月三日から三日間大雪、八月一

五日は日照りにつき、加藤の山神社に琴平神社の神火を迎えて雨乞い祈願を行ったりした。

明治三二年の大 明治三二年は暴風雨の来襲しきりであった。本町で水と明治天皇祭 は八月二八日午前二時から夜一〇時半まで南東風雨激しく、西讃で風速五二mに達した所もあり、九月一日現在県下の被害は死者三四〇名、負傷者九七一名、行方不明九名、家屋全壊一万一七六六戸、同半壊二七五一戸に及んだ。さらに九月二日再度降り出した雨は北東風と共にしだいに強烈となり、三日ついに地蔵川西堤防が大板屋南部で決壊し住宅五戸が流失、大板屋の住民は家を出て、松の大木に結んだ大島喜八の蔵引用ロープを伝い、濁流の中を竹下の石川高三郎宅へ避難した。九月四日、雨の中、村内総出で堤修復、五日も同様。七日に明治天皇が暴風雨被害見舞いのため片岡侍従一行を県にご差遣、後一〇月一〇日、県下八月以来の暴風雨被災者救恤のため天皇陛下から金六七〇〇円下賜があり、そのうち大板屋は一〇〇〇円であった。八日になり次の暴風雨が襲来するなど実に惨状を呈した。山田では池二つ決壊、ほかにも多くの災害が生じたと考えられるが定かでない。その後間もなく大板屋では救済会を結成、大水後一〇余年間集落一同草履・縄を日夜手作りにして換金し、ご下賜金を基金にポンプ・ホースなどを購入して大板屋の消防組を創立した。火災にはいち早く消火救援に努め、慰労の飲食物は一切辞退し、大板屋へ帰着後自ら用意した。明治四五年七月三〇日、明治天皇が亡くなられると、地蔵川西堤防に明治天皇社を造営し、七月三〇日を明治天皇祭の日として毎年宮司を招き感謝慰霊祭を開催、現在も継続している。最近まで余興があり、かつては「だし」も出て、当夜は近郷から訪れる者多数で活気に満ちていた。ちなみに、この大水で決壊した堤は改修されて「大板屋の勅使堤」といわれ、その保存のため

「牛馬の放し飼禁止」の立て札も立てられていた。ほかに橋方の南でも地蔵川東堤防が同じ年に決壊し、水田に堆積した砂を搬出して砂山三個となし、長く残存していたが、終戦後になり取り除かれた。また、大板屋にも砂山が五つ造られていたが、大正末になり高徳線の鉄路用にトロッコで取り除かれた。

〔勅使提〕 ちなみに昭和・大正時代には大半の農家が役用牛を飼育し、夏季の飼料は雑草が主であったので、牛馬の放牧、草刈りが盛んであった。次の立て札は明治三二年の地蔵川堤流失後、大板屋の勅使提が築かれその保護のためのものと思われる。

刈り草禁止の立て札（明治三十三年ごろ）

一、畦畔岸ノ雑草ハ總ベテ牛馬ヲ放チ飼ヒ 又ハ猥ニテヲ刈取ルコトヲ 禁ズ
大板屋免場中

明治四〇年 明治四〇年二月一〇日午前一時から降り出した雪は、の大雪 翌一日午後六時半まで三時間半降り続いた。ことに一日夜から一日午前中は激しく降り積もって、厚さ八寸四分（約二六cm）にも達した。琴平町では六〇cm、丸亀市三五cmであった。また、

集落名	堤防決壊位置	決壊堤	決壊後の砂山	砂山消去(-)	備考
大末	打越橋北	地蔵川西堤	石置五〇m	新町道となる	約五〇m「亀の甲」と呼称
道味	大末地神北東	東堤	砂山 小二	家屋敷地になる	「つえきし」の呼称残る
東天王	八坂神社東北東	西堤	同 大一	トロッコで搬出	大正末期・高徳線工事
橋方	橋方庵北	同 西堤	同 大一	同 畑にする	同
新川	上新川橋北沿い	同 西堤	同 大一	同 畑にする	昭和初期
脇	鴨部川古川合流点	鴨部川北堤	同 中五	トロッコで搬出	同・鴨部川改修工事

落ちた橋の主なもの、寒川町、地蔵橋、新川橋。近接隣村では造田の広瀬橋・乙井橋、富田の爛川橋・落合橋、長尾の前山橋などである。

大正元年の台風による県下の被害は死者三九名、行方不明四八名、浸水家屋一万二七二〇戸、流失家屋三七八戸、田畑浸水一九六一ha、道・橋・山の被害二七三か所、川・池決壊二二〇か所、被害総額一三二万円、この金額は前年度県歳出決算額の一・三倍という大被害であった。

昭和六年 昭和六年二月九日午後二時ごろから降り出した雪は、夜の大雪 に入って激しく、翌一日午前七時にやむ。阿讃山岳部で三〇〜四七cm、平地で平均二三cm、屋上二七cmであった。明治四〇年

以来の大雪で全国各地に及び被害も甚大であった。昭和九年 この年五月一三日から六〇日間降雨なく、七月一二日の干ばつ 雨以後四八日間雨なく、一〇八日間の日照りであった。九月六日の発表によると、田畑三万二四八八haの農産物被害三五八万

円。八月二九日には県知事の要請により、普通寺十一師団の山砲隊が五門の山砲で三〇〇発の実弾射撃して降雨を期待したが、効果はなかった。翌三〇日から三日間かがり火を焚いて雨乞い祈願するよう通達した。まれにみる大干ばつであった。

昭和一四年の降雨量（単位：mm）

年	前年一月〜五月	六月	七月	八月	九月	一〇月
平 年	四七三・九	一三七・三	一六四・一	八四・〇	一八九・五	一一四・七
昭和一四年	二七二・二	八六・六	五・五	一五・八	一〇二・二	二二三・九

同二年二月一七日三寸五分、一九日六寸（約一八cm）という積雪の記録がある。

大正元年の 大正元年九月二一日朝から大雨が降りしきり、強風が大水と地蔵川 加わって午後四時ごろから勢いを増し、夜に入って猛烈な雨風となった。脇では末川と鴨部川の合流地点で二二日午前二時ごろ西堤防が決壊し、その長さ一〇三間に達した。脇では大部分の家屋が床上浸水、牛は堤防の松木立に移し、人は西方鹿谷の山へ避難した。雨は二三日朝まで降り続いた。中村では北の鴨部川東堤防越しの大水が逆流し、前山（長尾町）で流失した家屋の木片、家具などが漂着した。村内各所で警鐘が乱打され水防に努めたが、水勢の猛威に施す術なく、地蔵川堤が打越橋から野間まで四七〇m間で数か所決壊し、橋はすべて流失、田は湖水と化し、人家の床上五〇cmの浸水も多く、量は流失、壁は落ち、惨状を呈した。砂は堆積して稲をうずめ、決壊箇所の下流は砂州となったと古老は言う。田地から担ぎ出した砂は盛り上げて所々に砂山が出現。これらの砂山は大正末から昭和初年の土木工事に役立ち消失した。池が多く決壊したと思われるが定かでない。橋はすべて落ち交通に難渋した。

干害が始め、八月三三日ごろから九月初めに熱風吹き急激に稲が枯死、被害甚大となる。県下で前三か年平均の五四・二%の米産となった。本町では収穫皆無の田もあったので、その被害は県平均を大きく上回っていたと思われる。

「私の証言」要約

〔香川用水史〕

枯れる稲にぼうぜん 土びんの水さえそぐ 石田 中川良隆
昭和になって、九年、一四年、一九年は「水ききん」に襲われましたが、とくに昭和一四年の大干ばつは、三か月間に一滴の雨もなく、石田村では七月の半夏雨以来九月一三日まで全く雨がなく、門入地区では、作付けこそできたものの、ため池がなく井戸水に頼っていたので、下の方は収穫ゼロでした。私のところはヒューガルポンプで水揚げをしても、反当（一〇a当たり）三俵でした。井戸水の出はますます細り、やがて食料水にも事欠き、フロをわかすこともほとんどなくなりました。井戸を掘る人が多くなり、村では雨乞いを祈願し、私たちが女体山や近くの三上山に登って雨乞いをしました。加藤地区では金毘羅宮で灯明をもらい、リレー式に持ち帰って毎夜かがり火をたいてお祈りをしました。土びん水といって、わずかの水を土びんに入れ、稲株へ注ぎました。こんなこともあって、大正時代から計画されていた門入池築造に拍車がかけられ、昭和一九年三月に完成しました。一四年の「水ききん」こそ、ほんとうの農業水の水ききんでした。

この干ばつでは、七月二三日知事が滝宮天満宮で雨乞い祈願執行、八月三日には県下の市町村に対し雨乞い祈願執行を通達、九月七日には県

年	災	害
明治 19	一月三日～二月二日、大雪 六月一八日～八月二七日、干ばつ、寒川郡被害大 九月一〇日、暴風雨（内容別記） 九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
22	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
23	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
24	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
26	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
27	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
28	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
29	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
30	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
31	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
32	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
36	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	
37	九月二一日～九月二二日、暴風雨のため石田尋常小学校校舎倒壊（二年建築の二階建て校舎） 七月三日～九月一日、干ばつ	

年	災	害
明治 38	八月二七日、暴風雨、家屋倒壊多し 二月一〇・二一日、大雪（内容別記） 八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
43	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
大正 元	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
2	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
6	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
7	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
10	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
11	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
12	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
13	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
14	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
15	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
2	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	
3	八月二四・二五日、暴風雨、県下の橋落下二七か所 九月七日、集中豪雨、三豊郡財田川橋流失 夏干ばつ	

が干害応急対策として日の出、日没前に学童により土瓶水を稲田に配水するよう県下各学校へ通達した。この年の干ばつは近年まれな大日照りで、池はすべて早くから水もなく、池底に草茂り、用水路は乾燥し、井戸水は水位下降で飲料水にも事欠き、田の中に祖先伝来の古井戸を探し求めてつるべで朝夕くみ揚げたが、「挽け石に水」であった。女体神社・山上山でかがり火を焚き、加藤・大末・新川ほか各地では金刀比羅宮の御神火を火縄で若者が継走して持ち帰り、免場の神社で昼夜雨乞いをした。花の山池掛り外各地では収穫皆無となり、飯米にも窮した。

昭和二十一年二月二日午前四時一九分大地震あり、激しくまた長い時間続いたので、棚の上から器物が落ち家が鳴った。家人は暗やみの中を一齐に屋外に逃げ出し、やがて近隣の人々集まりしばらくは家へ戻らなかつた。戸障子がはずれ、かまどが破壊し、墓石が多く倒伏した。地盤の弱い海岸近くでは屋根瓦が残らず落下した家が多く、被害甚大であった。震源地は熊野灘で潮岬の東方四〇kmの地点である。

昭和二十八年 九月二五・二六日の台風一三号の暴風雨が大水となり、の台風 津田川の水が宮内橋の西で堤防を越えて西北に流れたのと、鴨部川東堤防からあふれた水が南流して合流したため、中村西部の住宅はすべて床下浸水した。また門入池の堤防が危険になり、極楽寺・加藤・大角・風配・森弘・本村の一部住民は避難し、天王中学校の生徒は早退した。梅檀川・地蔵川共に決壊寸前となり、長尾警察署員・石田消防団員が出動して警戒した。

昭和五十一年 台風一七号の影響で九月八日から一三日まで断続的に多量の降雨があり、本町では床上浸水一九一戸、床下浸水六二七戸に及んだ。大川郡内の雨量観測所記録は次のとおり。

年	災	害
明治 3	夏干ばつ 春から雨なし	
6	夏干ばつ 数十日雨なく稲収穫皆無田多く、地租貸与の処置を受けるもの続出。八月二五日、暴風雨、倒壊浸水家屋多し。翌八年備荒貯蓄法により愛媛県が粃米を交付 六月、梅檀川はんらん 七月二五日～九月一六日、雨なし 七月三日～九月一日、雨なし 七月二二日～九月一七日、雨なし 八月一七日・九月一七日、暴風雨 暴風雨、鴨部川堤切れる	
9	夏干ばつ 数十日雨なく稲収穫皆無田多く、地租貸与の処置を受けるもの続出。八月二五日、暴風雨、倒壊浸水家屋多し。翌八年備荒貯蓄法により愛媛県が粃米を交付 六月、梅檀川はんらん 七月二五日～九月一六日、雨なし 七月三日～九月一日、雨なし 七月二二日～九月一七日、雨なし 八月一七日・九月一七日、暴風雨 暴風雨、鴨部川堤切れる	
12	夏干ばつ 数十日雨なく稲収穫皆無田多く、地租貸与の処置を受けるもの続出。八月二五日、暴風雨、倒壊浸水家屋多し。翌八年備荒貯蓄法により愛媛県が粃米を交付 六月、梅檀川はんらん 七月二五日～九月一六日、雨なし 七月三日～九月一日、雨なし 七月二二日～九月一七日、雨なし 八月一七日・九月一七日、暴風雨 暴風雨、鴨部川堤切れる	
13	夏干ばつ 数十日雨なく稲収穫皆無田多く、地租貸与の処置を受けるもの続出。八月二五日、暴風雨、倒壊浸水家屋多し。翌八年備荒貯蓄法により愛媛県が粃米を交付 六月、梅檀川はんらん 七月二五日～九月一六日、雨なし 七月三日～九月一日、雨なし 七月二二日～九月一七日、雨なし 八月一七日・九月一七日、暴風雨 暴風雨、鴨部川堤切れる	
15	夏干ばつ 数十日雨なく稲収穫皆無田多く、地租貸与の処置を受けるもの続出。八月二五日、暴風雨、倒壊浸水家屋多し。翌八年備荒貯蓄法により愛媛県が粃米を交付 六月、梅檀川はんらん 七月二五日～九月一六日、雨なし 七月三日～九月一日、雨なし 七月二二日～九月一七日、雨なし 八月一七日・九月一七日、暴風雨 暴風雨、鴨部川堤切れる	
16	夏干ばつ 数十日雨なく稲収穫皆無田多く、地租貸与の処置を受けるもの続出。八月二五日、暴風雨、倒壊浸水家屋多し。翌八年備荒貯蓄法により愛媛県が粃米を交付 六月、梅檀川はんらん 七月二五日～九月一六日、雨なし 七月三日～九月一日、雨なし 七月二二日～九月一七日、雨なし 八月一七日・九月一七日、暴風雨 暴風雨、鴨部川堤切れる	
17	夏干ばつ 数十日雨なく稲収穫皆無田多く、地租貸与の処置を受けるもの続出。八月二五日、暴風雨、倒壊浸水家屋多し。翌八年備荒貯蓄法により愛媛県が粃米を交付 六月、梅檀川はんらん 七月二五日～九月一六日、雨なし 七月三日～九月一日、雨なし 七月二二日～九月一七日、雨なし 八月一七日・九月一七日、暴風雨 暴風雨、鴨部川堤切れる	
18	夏干ばつ 数十日雨なく稲収穫皆無田多く、地租貸与の処置を受けるもの続出。八月二五日、暴風雨、倒壊浸水家屋多し。翌八年備荒貯蓄法により愛媛県が粃米を交付 六月、梅檀川はんらん 七月二五日～九月一六日、雨なし 七月三日～九月一日、雨なし 七月二二日～九月一七日、雨なし 八月一七日・九月一七日、暴風雨 暴風雨、鴨部川堤切れる	

(単位: mm)

観測所	月日等	九月一〇日	九月二一日	九月二二日	総降雨量
引田		三八三・五	三三五・〇	二九七・〇	一二四五・四
大川ダム		一四〇・五	二六〇・〇	三〇三・〇	八三〇・五
前山ダム		一六〇・〇	二三〇・〇	二四六・〇	七三九・〇

地蔵川・梅檀川は決壊しそうになり、住民総出で応急策を施し警戒に当たった。町では水防態勢を強化して意欲的に活動したが諸所で堤防が損傷し、池・橋・道路などの被害が甚大であった。当町は災害救助法の適用を受けた。

高松气象台で調査した資料によると、大小次のようなものがあるが、台風による暴風雨、あるいは干害が、いかに頻繁に起こっているかがわかる。

年	災	害
昭和 30	七・八月、干ばつ	
31	台風一三号災害、救助法発動(大川郡)	
34	八月二七日、台風九号	
35	九月二六日、台風一五号(伊勢湾台風)	
36	七月七・八日、集中豪雨	
37	八月二九日、台風一六号、県下の土木被害約二三億円	
38	八月二九日、台風一六号、県下の土木被害約二三億円	
39	九月三・四日、一〇月二六・二七日、小豆・大川山津波	
40	九月一五・一六日、台風一八号(第二室戸台風)、引田町被害甚大、自衛隊出動。降雨量長尾二九五mm、五名四〇四mm、前山三八八mm、引田三九三mm	
41	六月九・一〇・一三日、長雨、麦作大被害	
42	五月・六月、長期豪雨、麦大被害	
43	六月三・五日、大雨、被害大	
44	九月二五日、台風二〇号	
45	三月一六日、春雪、午後三時〜九時に七〜一五cm、山林被害大	
46	九月一〇日、台風二三・二四号(アベック台風)	
47	九月一三〜一五日、台風二四号、大水となる、小豆郡肥土山地滞り	
48	九月二五日、台風二四号	
49	一月一七日、大寒波、高松零下四・七度、塩江零下一度	
50	八月一九日〜九月一七日、干ばつ、高松異常渇水	
51	春大雪、山林被害大。長雨のため麦に赤さび病発生、被害大	
52	七月九日、西日本集中豪雨	

年	災	害
昭和 4	千ばつ	
5	七月一・二日、津田松原の巨松倒伏	
6	一月一・一・二日、降雪一七cm	
7	二月九日、降雪(内容別記)	
8	七月一・七日、集中豪雨	
9	五月一三日から六〇日間、雨なし、大干ばつ(内容別記)	
10	九月二一・二二日、室戸台風、大阪・京都・兵庫・和歌山で学校倒壊し、とくに大阪では児童が多数死亡、教師も死亡した。本県では稲・果樹は二、三割の減収、全損害五五八万円	
11	六月二九日、集中豪雨、富田村内池決壊	
12	八月二八・二九日、耕地の浸水・流失・埋没八一四八ha	
13	二月二八日午後二時半、石田西地蔵川西の玩具煙火工場爆発し死者六人、負傷二人	
14	一月一六・一七日、終日気温零下で池・河川大いに凍結	
15	九月二〇日、暴風雨	
16	七月三日、豪雨のため松尾村内全壊四戸	
17	九月四日、暴風雨が県東部通過、土木損害一九三万円	
18	大干ばつ。七月二〇日、各地で雨乞い祈願。七月二三日、知事が滝宮で雨乞い祈願。八月三日、県が市町村に雨乞い祈願を通知	
19	九月二〇・二一日、家屋浸水三九三三戸	
20	一月一・一・二日、終日気温零下、水道管破裂多し	
21	九月二〇日、鳥取大地震	

昭和	災	害
43	七月二七・二八日、台風六号	
44	七月、台風二号	
45	八月二四日、台風九号、引田四〇二mm	
46	八月二二日、台風一〇号、県下の被害九億七五〇〇万円	
47	八月二九・三〇日、台風二三号、引田町降雨量三二二mm、最大風速二八m、同一五億円	
48	七月四日、集中豪雨	
49	七月一六日、台風二〇号、同四六億円	
50	八月二日、塩江集中豪雨	
51	八月二七日までに人工降雨七回	
52	一月二七日、六年ぶりの積雪	
53	七月六・七日、台風八号	
54	九月九日、台風一八号	
55	一月二八日、水島重油流失事故発生(津田海域でも被害大)	
56	八月一七日、台風五号	
57	八月二二・二三日、台風六号	
58	九月一・二日、台風一七号、被害甚大(内容別記)	
59	山崩れ、小豆内海・津田北山(死者三人)	
60	三月一日、門入県行造林火災(放火)七ha。この年県下各地で山林火災発生(放火)	
61	年間七〇〇mm台の降雨	

昭和	災	害
19	七月一三〜一九日、田村神社で雨乞い祈願祭、県下四〇〇ha田植え不能、八月降雨あり	
20	七月四日午前一時四八分、米B29爆撃機来襲、高松市内家屋焼失約八〇%	
21	九月一七日、暴風雨、西讃(枕崎台風)	
22	二月二二日、南海大地震(内容別記)	
23	六・七月、干ばつ	
24	七月九日、集中豪雨、一〇月一八日、災害救助法発動	
25	七月三〇・三一日、ヘスター台風	
26	七月二七日、ヘンリー台風、県下の土木被害一億一〇〇〇万円	
27	八月六日、熱帯性低気圧	
28	九月三・四日、ジェーン台風、県下の土木被害六億八〇〇〇万円	
29	九月一三日、キジア台風、同一億六二〇〇万円	
30	七月一・二日、ケイト台風、同八億八七〇〇万円	
31	七月二日、集中豪雨、同二億六〇〇〇万円	
32	一〇月一四日、ルース台風、同二億一〇〇〇万円	
33	六月二三日、ダイナ台風、同一〇〇〇万円	
34	七月二・三日、豪雨、長尾で山崩れ、同五億七〇〇〇万円	
35	一〇月五日、豪雨、同一〇〇〇万円	
36	六月七日、台風二号	
37	九月二五・二六日、台風一三号(内容別記)	
38	六月二九日、集中豪雨	
39	八月一八日、台風五号、県下の土木被害六〇〇〇万円	
40	九月一三日、台風一三号、同約二二億円	
41	九月二四・二五日、台風一五号、同約三六億円	